

新駅的位置図

2次交通対策の概要

基本方針	項目	取組の概要
1. 利便性の高い2次交通網の構築	(1)バス交通の充実	ア. 新駅と市内中心部を結ぶ専用シャトルバスの運行 イ. 現在の路線バスの活用 ウ. 新駅と朝里川温泉やスキー場を結ぶバス交通の検討 エ. 北後志地域等をつなぐ路線バスの活用 オ. 外国人観光客にも対応したバスの運行 カ. 持続可能な運行体制の構築
	(2)タクシーサービスの充実	ア. IoTを活用した配車システムの導入 イ. 外国人観光客にも対応したタクシーサービスの充実 ウ. 乗合タクシーの検討
	(3)レンタカーサービスの充実	ア. レンタカー事業者の誘致 イ. レンタカーによる周遊性の向上
	(4)レンタサイクルの充実	ア. 可能性調査を踏まえたレンタサイクル拠点の設置 イ. 身軽になってサイクリングを楽しむことができるサービスの提供
2. 実効性を高める基盤づくり	(1)ICTを活用した新たなモビリティサービスの提供	ア. 観光型MaaS等の新たなモビリティサービスの提供 イ. 交通・観光関連事業者のキャッシュレス決済の導入促進
	(2)広域連携を強化する体制の構築	ア. 広域連携を強化する組織づくり
	(3)新駅の交通結節点機能の向上	ア. 利便性の高い駅機能の確保 イ. 駅前広場等の整備
	(4)移動円滑化の取組の推進	ア. バスの利便性向上の環境整備 イ. タクシーの利便性向上の環境整備 ウ. ユニバーサルデザイン等の導入の推進
3. 公共交通の利用促進と充実の好循環	(1)情報発信の強化	ア. 積極的な情報発信・PR イ. 新駅に向かう案内・サインの設置 ウ. 外国人対応の強化
	(2)公共交通の利用を促進するサービスの提供と魅力づけ	ア. 身軽になって観光を楽しむことができるサービスの提供 イ. 新駅と倶知安の周遊性を高めるサービスの検討 ウ. クルーズ船等との連携 エ. 地域連携等による魅力的なサービスの提供 オ. 魅力ある車両の導入
	(3)新駅周辺の魅力づくり	ア. 小樽のまちのイメージが伝わる駅舎や駅前デザインの検討 イ. 自然の豊かさや四季の移り変わりを感じる景観形成 ウ. 新駅の立地特性を生かした魅力づくり
	(4)移住・定住の促進	ア. 新駅周辺における住宅の整備促進 イ. 新幹線通勤・通学者の利用増加に向けた取組 ウ. 交通事業者の人材確保を兼ねた移住・定住促進策

ソフト対策の概要

基本方針	項目	取組の概要
1. 新幹線開業を契機とした個人観光客の誘致拡大	(1)小樽の文化・食資源を活用した多彩な個人観光客向けプログラムの開発	ア. 東北圏や青函圏等と連携した旅行商品の開発 イ. 北後志地域と連携した個人観光客向けプログラムの開発 ウ. 倶知安・ニセコと連携した個人観光客向けプログラムの開発 エ. 小樽市内の歴史や文化資源、自然資源を広く活用した観光プログラムの開発 オ. 新幹線と他の広域交通を組み合わせた旅行商品の開発
	(2)地域連携や電子媒体の活用等による効果的な情報発信	ア. 北海道新幹線停車駅のある自治体との連携体制の構築 イ. 地域連携による旅行商品等の幅広いPR ウ. SNSやHP等の電子媒体を活用した情報発信
2. 新幹線開業を地域の活力に繋げる取組	(1)滞在時間・宿泊客の拡大を目指した取組	ア. 宿泊客拡大に向けた取組 イ. 観光目的の多様化を踏まえた市内全域をフィールドとした観光資源の磨き上げ
	(2)小樽の地域産業と観光産業の結びつき強化	ア. 小樽産食材の活用促進 イ. 小樽ならではの産業観光の推進 ウ. 地域特性を生かした新幹線車内で味わえる商品の開発 エ. 開業記念グッズの製作
	(3)観光入込の季節間の平準化に向けた取組推進	ア. 観光入込の季節間の平準化に向けた各種取組
	(4)中小事業者を中心とした外国人観光客への対応力強化	ア. 中小事業者を対象とした外国人観光客への対応力強化
	(5)企業立地の促進	ア. 新駅周辺における民間機能の誘導 イ. 新幹線開業を契機とした企業立地ニーズへの対応
3. 新駅周辺の魅力づくり	(1)新駅を起点とした新たな観光プログラムの創造	ア. 奥沢水源地と勝納川環境整備 イ. 奥沢水源地や周辺の自然環境を活用した観光ガイドプログラムの開発 ウ. 奥沢周辺の観光資源との連携
	(2)開業気運を高めるイベントの実施	ア. 市民の新幹線開業気運を高めるイベントの実施 イ. 開業までのカウントダウン ウ. 市民等の新幹線利用の促進
4. 開業気運の醸成	(1)新幹線開業に向けた市民の意識醸成と利用促進	ア. 北海道新幹線停車駅のある自治体や北後志地域が連携した開業イベントの実施 イ. 開業後のイベント実施

